

スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ(日本・アジア)

マーケットヘッジあり

マンスリーレポート
基準日 2020年7月31日

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	MSCI AC Asia Index (円ベース)		
過去1か月間	4.86	2.51		
過去3か月間	14.02	10.38		
過去6か月間	17.59	-0.41		
過去1年間	-	-		
過去3年間	-	-	第1期	2020/2/27
設定来	20.29	5.39	設定来累計	0

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。
※当ファンドにベンチマークはありません。
参考指数は「MSCI AC Asia Index (円ベース)」です。
詳細は、本資料7頁をご参照下さい。

【資産配分】

資産	比率
SPARX・日本アジア・ベスト・ピック・ファンド(ヘッジありクラス/円建)	94.2%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.0%
現金等	5.8%

※比率は対純資産総額

【国・地域別配分】

国・地域		比率	
株式	中国	37.0%	86.6%
	日本	33.1%	
	韓国	5.0%	
	インドネシア	4.1%	
	その他	7.4%	
	現金等	13.4%	13.4%
	株式先物(売建)	-59.5%	-59.5%

※国・地域は、本社所在国等に基づいたスパークス・アセット・マネジメントによる分類です。

【通貨別配分(株式)】

通貨	比率
日本円	33.1%
香港ドル	21.7%
米ドル	13.1%
中国元	5.2%
韓国ウォン	5.0%
その他	8.5%
合計	86.6%

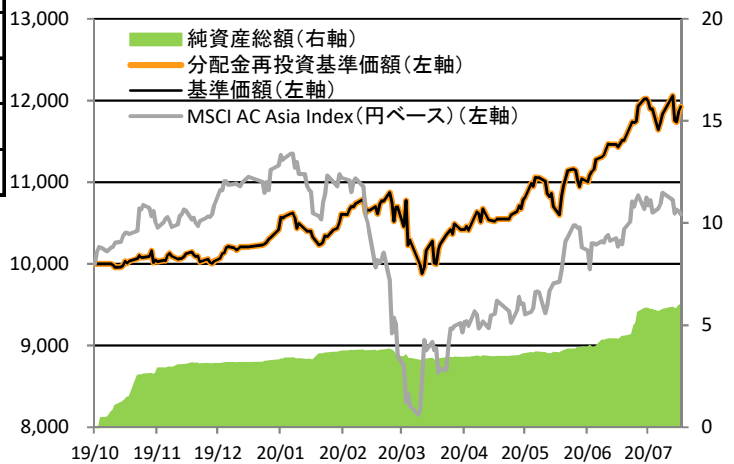
※【国・地域別配分】【通貨別配分(株式)】【業種別配分(株式)】は、当ファンドが投資する投資信託証券に関する情報で、「比率」は当該投資信託証券の純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
12,029 円	12,011 円	5.84 億円

※2019年10月11日(設定日前営業日)を10,000として指数化(円) (億円)



※当ファンドにベンチマークはありません。参考指数は「MSCI AC Asia Index (円ベース)」です。詳細は、本資料7頁をご参照下さい。
※基準価額は、信託報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【業種別配分(株式)】

業種	比率
一般消費財・サービス	22.0%
生活必需品	18.3%
ヘルスケア	14.5%
コミュニケーション・サービス	12.0%
資本財・サービス	9.3%
情報技術	7.3%
不動産	1.2%
金融	1.0%
エネルギー	1.0%
合計	86.6%

※業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

※比率は小数点第2位を四捨五入しています。なお、合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ(日本・アジア)

マーケットヘッジなし

マンスリーレポート
基準日 2020年7月31日

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	MSCI AC Asia Index (円ベース)		
過去1か月間	5.36	2.51		
過去3か月間	20.71	10.38		
過去6か月間	18.95	-0.41		
過去1年間	-	-		
過去3年間	-	-	第1期	2020/2/27
設定来	22.47	5.39	設定来累計	0

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。
※当ファンドにベンチマークはありません。
参考指数は「MSCI AC Asia Index (円ベース)」です。
詳細は、本資料7頁をご参照下さい。

【資産配分】

資産	比率
SPARX・日本アジア・ベスト・ピック・ファンド(ヘッジなしクラス/円建)	93.1%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.0%
現金等	6.9%

※比率は対純資産総額

【国・地域別配分】

国・地域	比率
中国	41.7%
日本	35.3%
韓国	5.8%
インドネシア	5.1%
その他	7.5%
現金等	4.6%

※国・地域は、本社所在国等に基づいたスパークス・アセット・マネジメントによる分類です。

【通貨別配分(株式)】

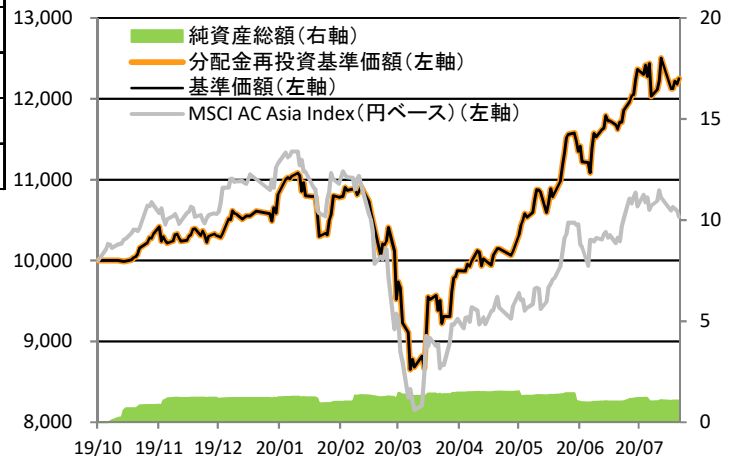
通貨	比率
日本円	35.3%
香港ドル	24.3%
米ドル	15.0%
中国元	5.9%
韓国ウォン	5.8%
その他	9.1%
合計	95.4%

※【国・地域別配分】【通貨別配分(株式)】【業種別配分(株式)】は、当ファンドが投資する投資信託証券に関する情報で、「比率」は当該投資信託証券の純資産総額に対する比率です。

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
12,247 円	12,229 円	1.07 億円

※2019年10月11日(設定日前営業日)を10,000として指数(円)



※当ファンドにベンチマークはありません。参考指数は「MSCI AC Asia Index (円ベース)」です。詳細は、本資料7頁をご参照下さい。

※基準価額は、信託報酬等控除後です。

※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。

※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【業種別配分(株式)】

業種	比率
一般消費財・サービス	23.6%
生活必需品	21.4%
ヘルスケア	15.8%
コミュニケーション・サービス	13.7%
資本財・サービス	9.8%
情報技術	8.5%
不動産	1.5%
エネルギー	0.6%
金融	0.5%
合計	95.4%

※業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

※比率は小数点第2位を四捨五入しています。なお、合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ (日本・アジア)

マーケットヘッジあり

マンスリーレポート
基準日 2020年7月31日

組入上位銘柄

組入銘柄数	38
-------	----

No	銘柄名	国・地域	業種	組入比率
1	ソニー	日本	一般消費財・サービス	5.8%
2	Nippon Indosari Corpindo Tbk PT	インドネシア	生活必需品	4.1%
3	WuXi AppTec Co Ltd	中国	ヘルスケア	4.1%
4	Alibaba Group Holding Ltd	中国	一般消費財・サービス	4.0%
5	キーエンス	日本	情報技術	3.9%
6	シマノ	日本	一般消費財・サービス	3.7%
7	Wuxi Biologics Cayman Inc	中国	ヘルスケア	3.3%
8	Ever Sunshine Lifestyle Services Group Ltd	中国	資本財・サービス	3.3%
9	Sea Ltd	シンガポール	コミュニケーション・サービス	3.1%
10	Tencent Holdings Ltd	中国	コミュニケーション・サービス	3.1%

* 業種は、世界産業分類基準 (GICS) の分類に基づきます。

* 国・地域は、本社所在国等に基づいたスパークス・アセット・マネジメントによる分類です。

組入上位銘柄の概要

No	銘柄名	国・地域	銘柄概要
1	ソニー	日本	ソニーは、電機メーカー。個人・法人向けに、オーディオ、家庭用ゲーム機、通信機器、電子部品、IT(情報技術)機器など製造。音楽、映画、コンピューターゲーム、オンラインゲーム、金融なども手掛ける。
2	Nippon Indosari Corpindo Tbk PT	インドネシア	ニッポン・インドサリ・コーピンド (PT Nippon Indosari Corpindo Tbk) は、パンメーカー。食パン、菓子パン、パン粉、およびラザニア、およびシフォンカップケーキを提供。インドネシアで事業を展開。
3	WuXi AppTec Co Ltd	中国	薬明康德[ウーシー・アプテック] (WuXi AppTec Co., Ltd.) は、製薬会社。抗体医薬品、バイオ医薬品などを手掛ける。
4	Alibaba Group Holding Ltd	中国	アリババ・グループ・ホールディング (Alibaba Group Holding Limited) は、子会社を通じてインターネット・インフラ、eコマース、オンライン金融、インターネット・コンテンツなどのサービスを提供。世界各国で事業を展開。
5	キーエンス	日本	キーエンスは、コンピューター導入による工場生産の自動化 (FA) 機器用のセンサーや制御・計測機器、ハイテクホビーなどを製造。光ファイバー・光電子センサー、プログラマブル論理制御 (PLC) 機器、レーザーマイクロメーター、バーコード読み取り機、ラジコンカーなども手掛ける。
6	シマノ	日本	シマノは、自転車、釣り関連用品、ロウイング (ボート競技) 関連用品などを製造・販売。主製品は自転車の駆動・ブレーキ部品や、竿・リール・仕掛けなどの釣り具など。同社は主にアジア、ヨーロッパ、米国に製品を輸出。
7	Wuxi Biologics Cayman Inc	中国	薬明生物技术[ウーシー・バイオロジクス] (WuXi Biologics (Cayman) Inc.) は製薬会社。抗体医薬品、バイオ医薬品などを開発・製造。研究材料の生成、滅菌保証プログラム、臨床試験、応用分子腫瘍研究なども手掛ける。世界各国で事業を展開。
8	Ever Sunshine Lifestyle Services Group Ltd	中国	永昇生活服務集団[イー・サンシャイン・ライフスタイル・サービス・グループ] (Ever Sunshine Lifestyle Services Group Limited) は、資産運用会社を傘下に持つ持株会社。同社と子会社は、不動産などの運用などを手掛ける。中国国内で事業を展開。
9	Sea Ltd	シンガポール	シー (Sea Limited) は情報技術サービス会社。パソコンやモバイル機器向けのデジタルコンテンツ、Eコマース (電子商取引) サービス、決済プラットフォームなどを提供し、世界各国で事業を展開。
10	Tencent Holdings Ltd	中国	騰訊[テンセント・ホールディングス] (Tencent Holdings Limited) は、子会社を通じて中国、米国、欧州などのユーザーにインターネットおよびモバイル付加価値サービス (VAS)、オンライン広告サービス、電子商取引サービスなどを提供。

* 国・地域は、本社所在国等に基づいたスパークス・アセット・マネジメントによる分類です。

※上記記載は当ファンドが投資する投資信託証券に関する情報です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社 (以下当社) が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書 (交付目論見書) をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書 (交付目論見書) のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ (日本・アジア)
マーケットヘッジなし

マンスリーレポート
基準日 2020年7月31日

組入上位銘柄

組入銘柄数	38
-------	----

No	銘柄名	国・地域	業種	組入比率
1	ソニー	日本	一般消費財・サービス	6.4%
2	Nippon Indosari Corpindo Tbk PT	インドネシア	生活必需品	5.1%
3	WuXi AppTec Co Ltd	中国	ヘルスケア	4.7%
4	キーエンス	日本	情報技術	4.6%
5	Alibaba Group Holding Ltd	中国	一般消費財・サービス	4.3%
6	Wuxi Biologics Cayman Inc	中国	ヘルスケア	3.7%
7	Ever Sunshine Lifestyle Services Group Ltd	中国	資本財・サービス	3.6%
8	Sea Ltd	シンガポール	コミュニケーション・サービス	3.5%
9	花王	日本	生活必需品	3.4%
10	ソフトバンクグループ	日本	コミュニケーション・サービス	3.4%

* 業種は、世界産業分類基準 (GICS) の分類に基づきます。

* 国・地域は、本社所在国等に基づいたスパークス・アセット・マネジメントによる分類です。

組入上位銘柄の概要

No	銘柄名	国・地域	銘柄概要
1	ソニー	日本	ソニーは、電機メーカー。個人・法人向けに、オーディオ、家庭用ゲーム機、通信機器、電子部品、IT(情報技術)機器など製造。音楽、映画、コンピューターゲーム、オンラインゲーム、金融なども手掛ける。
2	Nippon Indosari Corpindo Tbk PT	インドネシア	ニッポン・インドサリ・コーピンド(PT Nippon Indosari Corpindo Tbk)は、パンメーカー。食パン、菓子パン、パン粉、およびラザニア、およびシフォンカップケーキを提供。インドネシアで事業を展開。
3	WuXi AppTec Co Ltd	中国	薬明康德[ウーシー・アプテック](WuXi AppTec Co., Ltd.)は、製薬会社。抗体医薬品、バイオ医薬品などを手掛ける。
4	キーエンス	日本	キーエンスは、コンピューター導入による工場生産の自動化(FA)機器用のセンサーや制御・計測機器、ハイテクホビーなどを製造。光ファイバー・光電子センサー、プログラマブル論理制御(PLC)機器、レーザーマイクロメーター、バーコード読み取り機、ラジコンカーなども手掛ける。
5	Alibaba Group Holding Ltd	中国	アリババ・グループ・ホールディング(Alibaba Group Holding Limited)は、子会社を通じてインターネット・インフラ、eコマース、オンライン金融、インターネット・コンテンツなどのサービスを提供。世界各国で事業を展開。
6	Wuxi Biologics Cayman Inc	中国	薬明生物技術[ウーシー・バイオロジクス](WuXi Biologics (Cayman) Inc.)は製薬会社。抗体医薬品、バイオ医薬品などを開発・製造。研究材料の生成、滅菌保証プログラム、臨床試験、応用分子腫瘍研究なども手掛ける。世界各国で事業を展開。
7	Ever Sunshine Lifestyle Services Group Ltd	中国	永昇生活服務集団[イー・サンシャイン・ライフスタイル・サービス・グループ](Ever Sunshine Lifestyle Services Group Limited)は、資産運用会社を傘下に持つ持株会社。同社と子会社は、不動産などの運用などを手掛ける。中国国内で事業を展開。
8	Sea Ltd	シンガポール	シー(Sea Limited)は情報技術サービス会社。パソコンやモバイル機器向けのデジタルコンテンツ、Eコマース(電子商取引)サービス、決済プラットフォームなどを提供し、世界各国で事業を展開。
9	花王	日本	花王は衣料・住居用洗剤およびペットケア用品などの家庭用製品を製造。また、化粧品や油脂製品・界面活性剤などの産業用化学製品も手掛ける。
10	ソフトバンクグループ	日本	ソフトバンクグループは、日本の携帯電話等の電気通信事業者やインターネット関連企業等を傘下に置く持株会社。英国の半導体設計大手アーム・ホールディングスの買収や、ソフトバンク・ビジョン・ファンドを立ち上げるなど、次世代を見据えた投資を積極的に展開。

* 国・地域は、本社所在国等に基づいたスパークス・アセット・マネジメントによる分類です。

※上記記載は当ファンドが投資する投資信託証券に関する情報です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア）

マーケットヘッジあり／マーケットヘッジなし

マンスリーレポート
基準日 2020年7月31日

コメント

■市場環境

《日本の株式市場》

2020年7月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は、前月末比4.02%の下落となりました。

当月の日本株式市場は、香港国家安全維持法による米中対立悪化懸念から下落して始まりました。月半ばには、米国で新型コロナウイルスワクチンの開発報道が好感され景気敏感株を中心に上昇したものの、月末にかけては、米国GDP（国内総生産）の落ち込み、国内企業決算の不振、東京都を中心とした新型コロナウイルスの新規感染者数増加などの悪材料を背景として、下落基調に転じました。

《アジアの株式市場》

当月、アジア株式市場はまちまちの値動きでした。

台湾、インド、中国などの株式市場は堅調に推移しましたが、タイとフィリピンなどは軟調に推移しました。IT関連銘柄、ニューエコノミー関連銘柄の業績の好調さが、上昇基調を保つ要因となり、株式市場にもプラスに貢献しました。

Taiwan Semiconductor Manufacturing Company社やMediaTek社といった台湾のテクノロジー関連銘柄は、5G（第5世代移動通信システム）スマートフォン、データセンター、家庭用ゲーム機などの需要見通しが引き続き底堅さを見せたことから、当月内に過去最高値を更新しました。

中国では2020年第2四半期（4-6月）のGDP（国内総生産）が前年同期比3.2%増となり、同国経済がインフラ関連、不動産関連、自動車関連といったセクターに牽引される形で回復しつつあることが裏付けられました。ニューエコノミー関連銘柄とヘルスケア関連銘柄が、引き続き中国人投資家の関心の的となっています。

インドでは、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているにもかかわらず、政府が一部のロックダウンを緩和しました。インド株式市場が上昇したのは、コンピューターサービス会社のInfosys社、石油化学などを手掛けるReliance Industries社などの貢献によるものです。

インドネシアとフィリピンは新型コロナウイルス感染者数がASEAN諸国の中で最も多く、経済活動が停滞しています。海外からフィリピンへの送金額も減少し、消費支出がさらに落ち込みました。

■運用状況

「スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア）マーケットヘッジあり」は、前月末比4.86%上昇しました。また、「スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア）マーケットヘッジなし」は、同5.36%上昇しました。

当月は、私どもの投資銘柄選択に際しての重要な着眼点と、その具体的な銘柄例をいくつか紹介します。

私どもは投資対象を分析する際、「ビジネスの魅力」と「経営者の資質」にわけて検討します。株主からみて魅力的と感じるビジネスには、「高い資本収益性」や「持続可能な利益成長性」、「潤沢なキャッシュフローの創出」などの条件があります。

一方、株主にとって望ましい経営者とは、「資本コストの重要性を理解し、株主利益の観点から合理的な資本配分を行える人たち」であると考えます。日本ではこの二つの条件を高いレベルで同時に満たす企業はあまり多くないというのが私どもの見解ですが、シマノは数少ない一社に該当すると考えます。

同社は、高級スポーツ自転車向け変速ギアやブレーキ製品などで圧倒的な世界シェアを持っています。生産面のスケールメリットによって高いコスト競争力を持っているだけでなく、部品メーカーにもかかわらず消費者の間でブランドイメージが浸透していることから、強い価格決定権を武器に高い利益率を実現しています。結果として、高い資本収益性を維持し、潤沢なフリーキャッシュフローを生み出しているのです。また同社の歴代経営陣（2001年から社長を務める島野容三氏は5代目オーナー社長であり、創業者島野庄三郎氏の孫）は、過去数十年にわたり業界トップに君臨し、高効率な経営を続けるための舵取りを上手くしてきました。スポーツ自転車は耐久消費財であるため需要の周期性がやや大きいという特徴があるので、適切なタイミングで設備投資を行うことが重要となります。

（次ページへ）

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア）

マンスリーレポート 基準日 2020年7月31日

マーケットヘッジあり／マーケットヘッジなし

コメント

（前ページより）

例えば、同社は2000年代最初の10年間はあまり積極的な投資は行わずに（有形固定資産は400億円台で一貫して推移）、売上と利益をそれぞれ5割超成長させました。生産設備を膨らませず、かつ為替水準も円高に進んだこと（輸出企業の業績にとっては逆風）を勘案すると、かなり効率的もしくは価格競争力のある経営が行われていたことを示唆しています。その後直近10年間は新製品（主にe-bike関連製品）投入のための設備増強、「R&Dセンター」の建設、生産能力拡大を目的とした投資を大幅に増やしました。2019年12月期の有形固定資産は10年前に比べ3倍近くになっています。同社は成長著しいe-bike（スポーツ用電動自転車）分野では参入当初に苦戦しましたが、近年では二番手メーカーになるまで着実に市場シェアを上げており、首位のポッシュ社（独）との差を縮めつつあるようです。また今年になって新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、人々の通勤用途や余暇活動としてのスポーツ自転車需要が世界的に拡大基調に入っています。このため今後はこれらの設備投資が早晚、実を結ぶことが期待されます。

もうひとつ見逃せないのが、株主還元策です。上述のとおり同社は2000年代初めに設備投資を増やさなかったことから、バランスシートには現預金が必要以上に積みあがっていました。そこで、2003年から2008年にかけて大規模な自社株買いを実施しています。同5年間で営業利益は2倍弱に増えてきましたが、買い入れた自社株を消却したことで、一株当たり利益は2.7倍に拡大しました。

このようにビジネスが魅力的なだけでなく、資本の合理的な配分をできる経営者が存在することは大変頼もしいことであると、私どもは考えます。

さて「ビジネスの魅力」と「経営者の資質」のうち最終的に重要なのは、「経営者の資質」と考えます。勿論、どんなに経営者が優秀でも、ビジネスの業界環境が構造的に厳しければ、なかなか投資対象としては検討できません。しかし、ビジネスとしての魅力はそこまで高くなくても、優秀な経営陣によって経営されていけば、トータルとして魅力的な投資対象になることは充分にあり得ると、私どもは考えます。

小型精密モーター分野で世界最大手メーカーである日本電産が良い例です。モーターはあらゆる産業で使用される最もベーシックな機械製品であるため、需要の裾野が広いのが魅力です。しかし、日本電産はシマノと異なり消費者ブランドとしての強みは持っていないので、激しい価格競争や値下げ圧力がしばしば起きます。世の中には低収益のモーターメーカーが数多く存在しますが、日本電産は創業者である永守会長の強力なリーダーシップによって、これまで高収益且つ高い利益成長を遂げてきました。経済環境が厳しい現在も、収益改善プロジェクト「ダブルプロフィットレシオ」を実行し成果を見せ始めるなど、株主にもたらす恩恵は経営者の手腕によるところが大きいと、私どもは考えます。

同様に、アジアの銘柄についても「魅力的なビジネス」を有する企業例を上げたいと思います。当ファンドが昨年より投資してきたWuxi AppTecとWuxi Biologicは、中国で医薬品の受託開発・製造（CDMO：Contract Development and Manufacturing Organization）を手掛ける大手企業です。

両社は姉妹会社でありWuxi AppTecは低分子医薬、Wuxi Biologicはバイオ医薬品を中心に世界中の製薬メーカーや創薬ベンチャー企業から案件を受託しています。日本で類似の専門企業は見当たりませんが、今後飛躍的に拡大することが見込まれる業界です。背景にあるのは、医薬品の高度化が進むにつれて、近年新薬にかかわる開発費の投資効率が世界的に低下傾向にあるためです。大手製薬メーカーは業務プロセス見直しの一環として、研究開発以外の事業をアウトソーシングすることを進めている一方、創薬ベンチャー企業は、画期的な新薬の開発に成功しても自社だけでは市場投入にこぎ着けるだけのインフラを持っていないため、Wuxi AppTecやWuxi Biologicのような創薬以降の安全性確認試験、臨床試験、承認取得、製造、販売までフルサービスでサポートしてくれる企業を頼るようになってきました。同事業は豊富な人的資源と高度な開発製造技術を必要とするため、業界最大手である両社には優秀な人材が集まりやすいなど、高い参入障壁があります。新薬開発とそれ以外の工程を分担する「水平分業」が今後益々必要になると考えられ、ちょうどエレクトロニクス製品や半導体の製造受託ビジネスが大きく成長したように、新たな産業として台頭することが期待されます。

今後も日本を含むアジア地域の企業調査を進め、「魅力的なビジネス」を保有する優良な銘柄を発掘し、引き続き差別化されたポートフォリオ運用を行っていく方針です。

《「スパークス・日本アジア・ベストピック・ファンド（ヘッジ型）」の株式市場変動リスク低減について》

当月、「スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア）マーケットヘッジあり」は、株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、投資する投資信託証券を通じて投資する株式の市場感応度（ベータ値）に応じて、投資する投資信託証券を通じて株価指数先物取引等の売建て額を調整しました。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。